

## 「勉強」と「運動法則」

小岩利夫

勉強をすることに比例して、成績が伸びてくれるならば、もっと多くの生徒が、勉強好きになると思うのですが、一生懸命に努力しても、簡単に成績は良くなりません。それには、いろいろな原因があると思います。まずは運動の法則に当てはめて、考えてみることにしましょう。

「運動の法則」とは、力と加速度が比例していることです。この法則に従い、勉強を力と考えれば、それに比例した加速度という形で、成績もよくなると考えられます。止まっている車を急にエンジンを吹かして速く走らせると、短時間に速度の変化が大きく、加速度も大きくなります。人は車のように、簡単に力を出してスピードを上げるエンジンを持っていませんが、やる気を一気に出して、短い時間に成績を上げようと努力することはできるかもしれません。

天才であれば別ですが、誰もが

急にやる気を出せ、その成果が必ず出るかという点で難しいでしょう。小さな力、小さな加速度でも、成績が良くなる方法を考えてみましょう。

加速度は、速度の変化した量がかかった時間で割った値です。大きな変化（成績の向上が大）であっても、この変化に使われた時間が長いものであれば、加速度は小さな値になり、力も小さくなるのです。

人が頑張る力と、成績の伸びの加速度をそのまま置き換えてみると、頑張ることの苦手な人は、小さな頑張り力で、できるだけ長い時間をかけて、良い成績になることを目指せばいいのです。

目標を定めて諦めずに、コツコツと、丁寧な勉強を長く続けていきましよう。小さな力で少しずつでも勉強を続け、焦らないことです。

運動の法則をこのように理解し、日々の学習をたゆまず続けていきましょう。